

ドイツ親権法一覧

<p>1 親権規定の所在</p> <p>ドイツ民法典（以下、BGB）第4編「家族」第2章「血族」第5節「親の配慮」（1626条～1711条） ⇒ 現行規定は、1997年の「親子関係法改正法」（右欄④）による。ただし、2000年代に入って、数度の個別的改正が存在。</p>	<p>BGB 親権規定の変遷（主要改正）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1896年ドイツ民法典（1900年施行） ② 1957年6月18日「男女同権法」（BGB I, S.609） ③ 1979年7月18日「親の配慮の権利の新たな規制に関する法律 Gesetz zur Neuerung des Rechts der elterlichen Sorge : 配慮権法」（BGB I, S.106） ④ 1997年12月16日「親子関係法の改正のための法律 Gesetz zur Reform des Kindschaftsrecht : 親子関係法改正法」（BGB I, S.2849）
<p>関連法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1974年7月31日「成人年齢法」（BGBI. I, S. 1713） ② 1990年6月26日「連邦社会法典第8編（児童ならびに少年援助）」（BGBI.I, S.1163） ③ 2008年12月17日「家事事件手続法」（2009年9月1日施行）（BGBI.I,S.2586） ④ 1990年4月5日「配慮権条約実施法」（Sorgerechtsübereinkommens-Ausführungsgesetz – SorgeRÜbkAG）（BGBI.I,S.701）（現行法2001年2月19日法改正） 	

<p>2 親権（親の配慮）の概念</p> <p>ドイツ連邦共和国基本法（1949 年）には、子の保護と教育に関する親の権利が、「自然の権利」として保障。</p> <p>BGB 制定時より、<i>elterliche Gewalt</i> という用語が用いられていたが、1979 年改正により、<i>elterliche Sorge</i> という用語に変更</p>	<p>基本法 6 条 2 項</p> <p>子の保護と教育は親の自然の権利であり、かつ何よりもまず親に課せられた義務である。この義務の実行については、国家共同体がこれを監視する。</p> <p>Grundgesetz Art. 6 (2) <i>Pflege und Erziehung der Kinder sind das natürliche Recht der Eltern und die zuvörderst ihnen obliegende Pflicht. Über ihre Betätigung wacht die staatliche Gemeinschaft.</i></p>
<p><i>elterliche Gewalt</i> は、父権 <i>patria potestas</i> 概念につながり、親（主として父）の支配権的色彩が強かったが、1979 年配慮権法は、親権制度から従来の親の支配権的性格を取り去り、親権制度を、もっぱら子の福祉を指導理念とする、自立した個人へと成長する過程にある子の保護と補助のための制度へと転換させ、<i>elterliche Gewalt</i> という用語を廃し、それに代えて、<i>elterliche Sorge</i> という用語を用いた。<i>elterliche Sorge</i> という用語については、親の監護と邦訳されることもあるが、「親の配慮」という用語が広く用いられている。</p> <p>また、1997 年改正では、1926 条 1 項 1 文の文言を「権利を有し、義務を負う」から、「義務を負い、権利を有する」と変更して義務性を強調。基本法 6 条 2 項にいう親の自然の権利は、義務権として理解されている。</p>	<p>1626 条 1 項 1 文</p> <p>親は、未成年の子を配慮する義務を負い、権利を有する（親の配慮 <i>elterliche Sorge</i>）。</p> <p>Die Eltern haben die Pflicht und das Recht, für das minderjährige Kind zu sorgen (<i>elterliche Sorge</i>).</p> <p>2 条</p> <p>満 18 歳をもって、成年とする（1974 年改正）。</p> <p>Die Volljährigkeit tritt mit der Vollendung des 18. Lebensjahres ein.</p>

<p>3 親の配慮の内容</p> <p>(1) 身上配慮 と財産配慮 （1626 条 1 項 2 文）</p> <p>身上配慮 <i>Personensorge</i></p> <p>子を保護し、教育し、監督し、またその居所を指定する義務と権利を中心とするが（1631 条 1 項）、そのみならず、子の成長の助成と、自己責任と社会生活を送る能力を備えた人格に向けた教育のための事実的ならびに法的処置のすべて</p>	<p>1626 条 1 項</p> <p>親は、未成年の子を配慮する義務を負い、権利を有する（親の配慮）。親の配慮は、子の身上に関する配慮（身上配慮）と子の財産に関する配慮（財産配慮）とを含む。</p> <p>Die Eltern haben die Pflicht und das Recht, für das minderjährige Kind zu sorgen (<i>elterliche Sorge</i>). Die <i>elterliche Sorge</i></p>
---	---

<p>(3) 子の引渡し・交流の決定 ⇒ 6</p> <p>(4) 親の配慮行使時の損害と親の責任 (1664 条)</p>	<p>gegenüber dem Kind abzugeben, so genügt die Abgabe gegenüber einem Elternteil. Ein Elternteil vertritt das Kind allein, soweit er die elterliche Sorge allein ausübt oder ihm die Entscheidung nach § 1628 übertragen ist. Bei Gefahr im Verzug ist jeder Elternteil dazu berechtigt, alle Rechtshandlungen vorzunehmen, die zum Wohl des Kindes notwendig sind; der andere Elternteil ist unverzüglich zu unterrichten.</p> <p>1664 条</p> <p>(1) 親は親の配慮の行使に際し、子に対して、自己の事務に払うのを通常とする注意の限度においてのみ責任を負う。</p> <p>Die Eltern haben bei der Ausübung der elterlichen Sorge dem Kind gegenüber nur für die Sorgfalt einzustehen, die sie in eigenen Angelegenheiten anzuwenden pflegen.</p> <p>(2) 損害について親の双方に責任があるときは、親は連帯債務者として責を負う。</p> <p>Sind für einen Schaden beide Eltern verantwortlich, so haften sie als Gesamtschuldner.</p>
--	--

<p>4 親の配慮の帰属 (原則)</p> <p>(1) 婚姻中の親の配慮 原則 = 共同配慮 (1626 条 1 項 1 文) 行使の方法 ⇒ 7 単独帰属 ⇒ 5</p> <p>(2) 離婚後の親の配慮 原則 = 共同配慮</p>	<p>1626 条 1 項 1 文</p> <p>親 (Eltern) は、未成年の子を配慮する義務を負い、権利を有する (親の配慮)。</p> <p>Die Eltern haben die Pflicht und das Recht, für das minderjährige Kind zu sorgen (elterliche Sorge).</p>
---	---

<p>1626 条 1 項 1 文は、父母双方への親の配慮帰属を婚姻中に限定していない</p> <p>＝ 離婚後の親の共同配慮の継続</p> <p>行使の方法 ⇒ 7</p> <p>単独帰属 ⇒ 5</p> <p>(3) 非嫡出子の親の配慮</p> <p>1) 原則 = 母による単独配慮</p> <p>BGB では、嫡出子と非嫡出子という概念自体は存在しないが (1997 年法による改正)、未婚の女子が子を生んだときは、1626 条 a 1 項 1 号ないし 3 号の場合をのぞき、母に単独で親の配慮が帰属する (1626 条 a 3 項)。</p> <p>2) 共同配慮</p> <p>以下の場合には、共同配慮となる。</p> <p>1 配慮表明 (1626 条 a 1 項 1 号)</p> <p>行使の方法 ⇒ 7</p> <p>単独帰属 ⇒ 5</p> <p>2 両親の婚姻 (同 2 号)</p> <p>3 家裁による移譲 (同 3 号 2 項)</p>	<p>1626 条 a</p> <p>(1) 子の出生時に両親が婚姻していないときは、次のいずれかの場合に、両親は共同で親の配慮を有する。</p> <p>1 両親が配慮を共同で行うことを希望する旨意思表示するとき。</p> <p>(配慮表明 Sorgeerklärung)</p> <p>2 両親が婚姻をするとき。</p> <p>3 家庭裁判所が両親に親の配慮を共同で移譲するとき</p> <p>Sind die Eltern bei der Geburt des Kindes nicht miteinander verheiratet, so steht ihnen die elterliche Sorge gemeinsam zu,</p> <p>1. wenn sie erklären, dass sie die Sorge gemeinsam übernehmen wollen (Sorgeerklärungen),</p> <p>2. wenn sie einander heiraten oder</p> <p>3. soweit ihnen das Familiengericht die elterliche Sorge gemeinsam überträgt.</p> <p>(2) 家庭裁判所は、子の福祉に反しないときは、第 1 項 3 号により、親の一方の申立に基づき、親の配慮または親の配慮の一部を両親双方に共同で移譲する。親の他方が共同の親の配慮の移譲の妨げとなる可能性のある理由を申し述べない場合および他にそのような理由が明白でないには、共同の親の配慮は子の福祉に反しないと推定される。</p> <p>Das Familiengericht überträgt gemäß Absatz 1 Nummer 3 auf Antrag eines Elternteils die elterliche Sorge oder einen Teil der elterlichen Sorge beiden Eltern gemeinsam, wenn die Übertragung dem Kindeswohl nicht widerspricht. Trägt der andere Elternteil keine Gründe vor, die der Übertragung der gemeinsamen elterlichen Sorge entgegenstehen können, und sind solche</p>
---	---

	<p>Gründe auch sonst nicht ersichtlich, wird vermutet, dass die gemeinsame elterliche Sorge dem Kindeswohl nicht widerspricht.</p> <p>(3) その他の場合には、母が親の配慮を有する。 Im Übrigen hat die Mutter die elterliche Sorge.</p> <p>1626 条 b~1626 条 e 配慮表明の方法等</p>
--	--

<p>5 配慮者の変更</p> <p>(1) 共同配慮から単独配慮への変更</p> <p>① 1671 条 1 項による親の配慮の移譲</p> <p>親が一時的にではなく別居している場合に、親の他方が同意していること、または申立者への移譲が子の福祉に最もよく合致していることを要件として、家庭裁判所の決定により 申立者へ移譲 = 共同配慮の終了</p>	<p>1671 条</p> <p>(1) 両親が一時的にではなく別居しており、共同で親の配慮を有しているときには、親はいずれも、自己に親の配慮または親の配慮の一部を単独で移譲するように、家庭裁判所に申し立てることができる。その申立は、以下の場合に限り認められる。</p> <p>1 親の他方が同意しているとき。ただし、子が満 14 歳以上であり、反対をしている場合には、この限りではない。</p> <p>2 共同の配慮の取り止めおよび申立者への移譲が最も子の福祉にかなうと期待されるとき。</p> <p>Leben Eltern nicht nur vorübergehend getrennt und steht ihnen die elterliche Sorge gemeinsam zu, so kann jeder Elternteil beantragen, dass ihm das Familiengericht die elterliche Sorge oder einen Teil der elterlichen Sorge allein überträgt. Dem Antrag ist stattzugeben, soweit</p> <p>1. der andere Elternteil zustimmt, es sei denn, das Kind hat das 14. Lebensjahr vollendet und widerspricht der Übertragung, oder</p> <p>2. zu erwarten ist, dass die Aufhebung der gemeinsamen Sorge und die Übertragung auf</p>
--	---

<p>② 親の一方が事実上親の配慮を行うことができなくなった場合または親権が停止されている場合（1678条1項）</p>	<p>den Antragsteller dem Wohl des Kindes am besten entspricht.</p> <p>1678条</p> <p>(1) 親の一方が事実上親の配慮を行使することができないとき、または親の配慮が停止しているときには、親の他方が、単独で親の配慮を行使する；このことは、第1626条a第3項、第1671条または第1672条1項によって親の一方が親の配慮を単独で有していたときには、適用されない。</p> <p>Ist ein Elternteil tatsächlich verhindert, die elterliche Sorge auszuüben, oder ruht seine elterliche Sorge, so übt der andere Teil die elterliche Sorge allein aus; dies gilt nicht, wenn die elterliche Sorge dem Elternteil nach § 1626a Absatz 3 oder § 1671 allein zustand.</p> <p>* 1673条～1675条 親の配慮の停止</p>
<p>③ 親の一方が死亡した場合（1680条1項）</p>	<p>1680条</p> <p>(1) 親が共同で親の配慮を有している場合に、その一方が死亡したときは、親の配慮は生存している親の他方に帰属する。</p> <p>Stand die elterliche Sorge den Eltern gemeinsam zu und ist ein Elternteil gestorben, so steht die elterliche Sorge dem überlebenden Elternteil zu.</p>
<p>④ 親の一方が死亡宣告を受けた場合(1681条1項)</p> <p>* 復活可能性（同2項）</p>	<p>1681条</p> <p>(1) 親の一方が死亡宣告を受け、または失踪法の諸規定により死亡の時が確認されたことによって、その親の配慮が終了したときには、第1680条第1項および第2項が準用される。</p> <p>(2) 前項の親の一方がなお生存している場合において、子の福祉に反しないときは、家庭裁判所は、申立に基づき、第1677条によって決定された時点より前に有していた範囲において、その者に親の配慮を委ねなければならない。</p> <p>§ 1681</p> <p>(1) § 1680 Abs. 1 und 2 gilt entsprechend,</p>

	<p>wenn die elterliche Sorge eines Elternteils endet, weil er für tot erklärt oder seine Todeszeit nach den Vorschriften des Verschollenheitsgesetzes festgestellt worden ist.</p> <p>(2) Lebt dieser Elternteil noch, so hat ihm das Familiengericht auf Antrag die elterliche Sorge in dem Umfang zu übertragen, in dem sie ihm vor dem nach § 1677 maßgebenden Zeitpunkt zustand, wenn dies dem Wohl des Kindes nicht widerspricht.</p>
<p>⑤ 親の一方の親の配慮の剥奪 (1680 条 3 項)</p>	<p>1680 条</p> <p>(3) 第 1 項および 2 項は、親の一方が親の権利を剥奪された場合に限り、準用される。</p> <p>Die Absätze 1 und 2 gelten entsprechend, soweit einem Elternteil die elterliche Sorge entzogen wird.</p>
<p>(2) 単独配慮者の変更</p> <p>1) 共同配慮から単独配慮者となった者に関する変更</p>	
<p>① 1680 条 2 項による移譲</p> <p>1671 条によって親の配慮を単独で有することになった親の一方が死亡した場合に、子の福祉に反しないことを要件として、家庭裁判所は親の配慮を生存している親の他方に移譲</p>	<p>1680 条</p> <p>(2) 第 1626 条 a 第 3 項または 1671 条によって親の配慮を単独で有していた親の一方が死亡した場合において、子の福祉に反しないときは、家庭裁判所は親の配慮を生存している親の他方に移譲しなければならない。</p> <p>Ist ein Elternteil, dem die elterliche Sorge gemäß § 1626a Absatz 3 oder § 1671 allein zustand, gestorben, so hat das Familiengericht die elterliche Sorge dem überlebenden Elternteil zu übertragen, wenn dies dem Wohl des Kindes nicht widerspricht.</p>
<p>2) 単独配慮者たる非嫡出子の母または父に関する変更</p>	
<p>① 1671 条 2 項による委譲</p> <p>親が一時的にではなく別居しており、かつ 1626</p>	<p>1671 条</p> <p>(2) 親が一時的にではなく別居しており、1626</p>

<p>条 a3 項によって母が親の配慮を有する場合に、母の同意があり、移譲が子の福祉に反せず、14 歳以上の子の反対がないこと、共同の配慮が考慮されず、父への移譲が子の福祉にかなうこと、を要件として、父の申立により 家庭裁判所の決定によって父に移譲</p> <p style="text-align: center;">* 共同配慮復帰の可能性あり (同 2 項)</p> <p>② 1678 条 2 項による委譲</p> <p>1626 条 a 3 項または 1671 条によって親の一方が単独で有していた親の配慮が停止され、かつ停止の原因が除去される見込みがない場合に、子の福祉に資することを要件として、家庭裁判所の決定によって移譲</p>	<p>条 a 3 項によって母が親の配慮を有しているときには、父は、自己に親の配慮または親の配慮の一部を単独で移譲するように、家庭裁判所に申し立てることができる。その申立は、以下の場合に限り認められる。</p> <p>1 母が同意しているとき。ただし、移譲が子の福祉に反する場合、または子が満 14 歳以上であり、移譲に反対をしている場合には、この限りではない。</p> <p>2 共同の配慮が考慮されず、かつ父への移譲が最も子の福祉にかなうと期待されるとき。</p> <p style="text-align: center;">Leben Eltern nicht nur vorübergehend getrennt und steht die elterliche Sorge nach § 1626a Absatz 3 der Mutter zu, so kann der Vater beantragen, dass ihm das Familiengericht die elterliche Sorge oder einen Teil der elterlichen Sorge allein überträgt. Dem Antrag ist stattzugeben, soweit</p> <p>1. die Mutter zustimmt, es sei denn, die Übertragung widerspricht dem Wohl des Kindes oder das Kind hat das 14. Lebensjahr vollendet und widerspricht der Übertragung, oder</p> <p>2. eine gemeinsame Sorge nicht in Betracht kommt und zu erwarten ist, dass die Übertragung auf den Vater dem Wohl des Kindes am besten entspricht.</p> <p>1678 条</p> <p>(2) 第 1626 条 a 第 3 項または 1671 条によって親の一方が単独で有していた親の配慮が停止され、かつ停止の原因が除去される見込みがない場合において、子の福祉に反しないときは、家庭裁判所は親の配慮を親の他方に移譲しなければならない。</p> <p>Ruht die elterliche Sorge des Elternteils, dem sie gemäß § 1626a Absatz 3 oder § 1671 allein zustand, und besteht keine Aussicht, dass der Grund des Ruhens wegfallen werde, so hat das Familiengericht die elterliche Sorge dem anderen Elternteil zu übertragen, wenn dies dem Wohl des Kindes nicht widerspricht.</p>
--	--

<p>③ 1680 条 2 項による移譲</p> <p>第 1626 条 a 第 3 項、1672 条 1 項によって親の配慮を単独で有していた親の一方が死亡した場合に、子の福祉に反しないことを要件として、家庭裁判所の決定によって生存している他方に移譲</p> <p>④ 1680 条 3 項による移譲</p> <p>単独で親の配慮を有していた親の一方が親の配慮を剥奪された場合に、子の福祉に反しないことを要件として、家庭裁判所の決定によって生存している他方に移譲</p>	<p>1680 条</p> <p>(1) 親が共同で親の配慮を有している場合に、その一方が死亡したときは、親の配慮は生存している親の他方に帰属する。</p> <p>(2) 第 1626 条 a 第 3 項または 1671 条によって親の配慮を単独で有していた親の一方が死亡した場合において、子の福祉に反しないときは、家庭裁判所は親の配慮を生存している親の他方に移譲しなければならない。</p> <p>(3) 第 1 項および 2 項は、親の一方が親の権利を剥奪された場合に限り、準用する。</p> <p>(1) Stand die elterliche Sorge den Eltern gemeinsam zu und ist ein Elternteil gestorben, so steht die elterliche Sorge dem überlebenden Elternteil zu.</p> <p>(2) Ist ein Elternteil, dem die elterliche Sorge gemäß § 1626a Absatz 3 oder § 1671 allein zustand, gestorben, so hat das Familiengericht die elterliche Sorge dem überlebenden Elternteil zu übertragen, wenn dies dem Wohl des Kindes nicht widerspricht.</p> <p>(3) Die Absätze 1 und 2 gelten entsprechend, soweit einem Elternteil die elterliche Sorge entzogen wird.</p> <p>1671 条</p> <p>(3) 1751 条 1 項 1 文によって母の親の配慮が停止している場合には、1626 条 a 2 項による共同配慮の移譲に関する父の申立は、第 2 項の申立とみなされる。父への親の配慮の移譲が子の福祉に反しないかぎり、申立は認容される。</p> <p>Ruht die elterliche Sorge der Mutter nach § 1751 Absatz 1 Satz 1, so gilt der Antrag des Vaters auf Übertragung der gemeinsamen elterlichen Sorge nach § 1626a Absatz 2 als Antrag nach Absatz 2. Dem Antrag ist stattzugeben, soweit die Übertragung der elterlichen Sorge auf den Vater dem Wohl des Kindes nicht widerspricht.</p>
--	--

	<p>(4) 親の配慮が他の規定に基づいて、異なって規律されなければならない場合には、第 1 項および 2 項の申立は認められない。</p> <p>Den Anträgen nach den Absätzen 1 und 2 ist nicht stattzugeben, soweit die elterliche Sorge auf Grund anderer Vorschriften abweichend geregelt werden muss.</p>
--	---

<p>6 転居・国外への移動</p> <p>BGB には、転居・国外への移動に関する特別の規定は存在しない。住所ならびに居所指定、引渡しに関する規定は以下の通り。</p> <p>(1) 子の住所 未成年子の住所＝身上配慮権者たる親の住所 (11 条)</p> <p>(2) 居所指定権 居所指定は身上配慮に含まれる(1631 条 1 項)</p>	<p>11 条 未成年の子は親と住所を共にする。ただし、子はその身上について配慮する権利を有さない親とは住所を共にしない。子の身上について配慮する権利を有する親が存在しないときは、子はその権利を有する者と住所を共にする。子は自らが有効に廃棄するまでは、その住所を保持する。</p> <p>Ein minderjähriges Kind teilt den Wohnsitz der Eltern; es teilt nicht den Wohnsitz eines Elternteils, dem das Recht fehlt, für die Person des Kindes zu sorgen. Steht keinem Elternteil das Recht zu, für die Person des Kindes zu sorgen, so teilt das Kind den Wohnsitz desjenigen, dem dieses Recht zusteht. Das Kind behält den Wohnsitz, bis es ihn rechtsgültig aufhebt.</p> <p>1631 条 (1) 身上配慮は、とくに子を保護し、教育し、監督し、またその居所を指定する義務と権利を含む。</p> <p>Die Personensorge umfasst insbesondere die Pflicht und das Recht, das Kind zu pflegen,</p>
--	--

<p>(3) 子の引渡し・交流の決定</p> <p>① 子の引渡しの命令</p> <p>親の配慮を有する者は、居所指定権の効果として、違法に子を引き渡さない者に対して、子の引渡しを求めることができる(1632条1項)。子の引渡しを命ずる裁判は、家庭裁判所が行う(同3項)</p> <p>引渡請求権者</p> <p>親の配慮(居所指定権)を有する親相手方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第三者 2 親の配慮を有さない親の一方 3 居所指定権をもたない親(共同配慮の関係にある親の間) <p>*共同配慮者の中で子の居所指定権の帰属が定まっていない場合には、家庭裁判所で親の一方に親の配慮あるいは子の居所の決定が委ねられた後(1671条)にはじめて、引渡の請求が問題となりうる。</p> <p>② 養育維持命令</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相当長期期間家庭養育で生活している子について(1632条4項) 	<p>zu erziehen, zu beaufsichtigen und seinen Aufenthalt zu bestimmen.</p> <p>1632 条</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 身上配慮は、子を親または親の一方に違法に引き渡さない者に対して、子の引き渡しを求める権利を含む。 (2) 身上配慮はさらに、第三者に対しても、その利益になると否とにかかわらず、有効に子の交流を決定する権利を含む。 (3) 第1項または第2項の事務に関する争いについては、親の一方の申立に基づき、家庭裁判所が決定する。 (4) 子が相当長期期間家庭養育で生活しているときにおいて、親が養育人から子を引き離すことを希望する場合には、引離しによって子の福祉が危険にさらされる場合に限り、家庭裁判所は職権または養育人の申立に基づき、子を養育人のもとにとどめることを命ずることができる。 <p>§ 1632</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Die Personensorge umfasst das Recht, die Herausgabe des Kindes von jedem zu verlangen, der es den Eltern oder einem Elternteil widerrechtlich vorenthält. (2) Die Personensorge umfasst ferner das Recht, den Umgang des Kindes auch mit Wirkung für und gegen Dritte zu bestimmen. (3) Über Streitigkeiten, die eine Angelegenheit nach Absatz 1 oder 2 betreffen, entscheidet das Familiengericht auf Antrag eines Elternteils. (4) Lebt das Kind seit längerer Zeit in Familienpflege und wollen die Eltern das Kind von der Pflegeperson wegnehmen, so kann das Familiengericht von Amts wegen oder auf Antrag der Pflegeperson anordnen, dass das Kind bei der Pflegeperson verbleibt, wenn und solange das Kindeswohl durch die
---	--

<p>2 相当長期間親の配偶者（継親）や生活パートナーとともに一つの家庭で生活をしてきた子について（1682条）</p>	<p>Wegnahme gefährdet würde.</p> <p>1682条 子が相当長期間親の一方およびその配偶者とともに一つの家庭で生活をしてきた場合において、第1678条、第1680条、第1681条によって子の居所を単独で決定することができる親の他方が子を当該配偶者のもとから引き離すことを希望するときは、家庭裁判所は職権または当該配偶者の申立に基づき、引き離しによって子の福祉が危険にさらされるおそれがあるときに限り、子が当該配偶者のもとにとどまることを命ずることができる。子が相当長期間親の一方およびその生活パートナーもしくは第1685条第1項によって交流権を有する成年者とともに一つの家庭で生活をしてきているときには、第1文が準用される。</p> <p>Hat das Kind seit längerer Zeit in einem Haushalt mit einem Elternteil und dessen Ehegatten gelebt und will der andere Elternteil, der nach den §§ 1678, 1680, 1681 den Aufenthalt des Kindes nunmehr allein bestimmen kann, das Kind von dem Ehegatten wegnehmen, so kann das Familiengericht von Amts wegen oder auf Antrag des Ehegatten anordnen, dass das Kind bei dem Ehegatten verbleibt, wenn und solange das Kindeswohl durch die Wegnahme gefährdet würde. Satz 1 gilt entsprechend, wenn das Kind seit längerer Zeit in einem Haushalt mit einem Elternteil und dessen Lebenspartner oder einer nach § 1685 Abs. 1 umgangsberechtigten volljährigen Person gelebt hat.</p>
--	---

<p>7 暫定的な親権・監護</p> <p>(1) 共同の親の配慮の場合</p> <p>1) 共同行使</p>	<p>1627条</p>
---	--------------

<p>2) 別居中の行使の態様 (1687 条)</p> <p>原則 = 重要な事務について親の合意による決定 (1687 条 1 項 1 文)</p> <p>例外 = 単独決定 他方の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて子の常居所となっている親の一方 ⇒ 日常生活の諸事務についての単独決定権 (同 2 文)</p> <p>普段は子と別居しているが、親の他方の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて一時的に子を手もとに置いている親の一方 ⇒ 事実上の世話に関する事務についての単独決定権 (同 4 文)</p> <p>親の一方が事実上親の配慮を行うことができなくなった場合または親権が停止されている場合 (1678 条 1 項) ⇒ 親の他方の単独行使</p>	<p>ist eine Willenserklärung gegenüber dem Kind abzugeben, so genügt die Abgabe gegenüber einem Elternteil. Ein Elternteil vertritt das Kind allein, soweit er die elterliche Sorge allein ausübt oder ihm die Entscheidung nach § 1628 übertragen ist. Bei Gefahr im Verzug ist jeder Elternteil dazu berechtigt, alle Rechtshandlungen vorzunehmen, die zum Wohl des Kindes notwendig sind; der andere Elternteil ist unverzüglich zu unterrichten.</p> <p>1687 条</p> <p>(1) 共同で親の配慮を有する親が一時的にではなく別居している場合において、取り決めることが子にとって著しく重要な諸事務について決定を行うときには、親の合意を必要とする。他方の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて子の常居所となっている親の一方は、日常生活の諸事務について単独で決定する権限を有する。日常生活の諸事務についての決定とは、通常は、頻繁に必要となり、かつ子の成長に大きな変化をもたらすような影響を及ぼさない決定をいう。子の常居所となっていない親の一方は、他方の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて子を手もとに置いている限りにおいて、事実上の世話に関する事務について単独で決定する権限を有する。第 1629 条第 1 項第 4 文および第 1684 条第 2 項第 1 文が準用される。</p> <p>(2) 子の福祉のために必要であるときには、家庭裁判所は、第 1 項第 2 文および第 4 文の権限を制限し、または排除することができる。</p> <p>§ 1687</p> <p>(1) Leben Eltern, denen die elterliche Sorge gemeinsam zusteht, nicht nur vorübergehend getrennt, so ist bei Entscheidungen in Angelegenheiten, deren Regelung für das Kind von erheblicher Bedeutung ist, ihr gegenseitiges Einvernehmen erforderlich. Der Elternteil, bei dem sich das Kind mit Einwilligung des anderen Elternteils oder auf Grund einer gerichtlichen Entscheidung gewöhnlich aufhält, hat die Befugnis zur</p>
--	---

	<p>alleinigen Entscheidung in Angelegenheiten des täglichen Lebens. Entscheidungen in Angelegenheiten des täglichen Lebens sind in der Regel solche, die häufig vorkommen und die keine schwer abzuändernden Auswirkungen auf die Entwicklung des Kindes haben. Solange sich das Kind mit Einwilligung dieses Elternteils oder auf Grund einer gerichtlichen Entscheidung bei dem anderen Elternteil aufhält, hat dieser die Befugnis zur alleinigen Entscheidung in Angelegenheiten der tatsächlichen Betreuung. § 1629 Abs. 1 Satz 4 und § 1684 Abs. 2 Satz 1 gelten entsprechend.</p> <p>(2) Das Familiengericht kann die Befugnisse nach Absatz 1 Satz 2 und 4 einschränken oder ausschließen, wenn dies zum Wohl des Kindes erforderlich ist.</p> <p>1678 条</p> <p>(1) 親の一方が事実上親の配慮を行使することができないとき、または親の配慮が停止しているときには、親の他方が、単独で親の配慮を行使する；このことは、第1626条a第3項、または第1671条によって親の一方が親の配慮を単独で有していたときには、適用されない。</p> <p>Ist ein Elternteil tatsächlich verhindert, die elterliche Sorge auszuüben, oder ruht seine elterliche Sorge, so übt der andere Teil die elterliche Sorge allein aus; dies gilt nicht, wenn die elterliche Sorge dem Elternteil nach § 1626a Absatz 3 oder § 1671 allein zustand.</p> <p>(2) 単独の親の配慮の場合</p> <p>親の配慮を有さない親の一方の決定権(1687条a) 親の他方もしくはその他配慮を有する者の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて子を手もとに置いているとき ⇒ 事実上の世話に関する事務についての単独決定権(1687条1項4文準用)</p> <p>1687 条 a 親の配慮を有さない親の一方が、他方もしくはその他親の配慮を有する者の事前の同意を得て、または裁判所の決定に基づいて子を手もとに置いているときには、第1687条第1項第4文および第5文ならびに第2項が準用される。</p>
--	--

<p>(3) 家庭養育人 Familienpfleger の決定権</p> <p>子が相当長期間家庭養育に出されているときは、養育人 ⇒ 日常生活の諸事務について決定する権限、およびその種の事務について親の配慮を有する者を代理する権限を有する(1688 条 1 項 1 文)</p>	<p>Für jeden Elternteil, der nicht Inhaber der elterlichen Sorge ist und bei dem sich das Kind mit Einwilligung des anderen Elternteils oder eines sonstigen Inhabers der Sorge oder auf Grund einer gerichtlichen Entscheidung aufhält, gilt § 1687 Abs. 1 Satz 4 und 5 und Abs. 2 entsprechend.</p> <p>1688 条</p> <p>(1) 子が相当長期間家庭養育に出されているときには、養育人は日常生活の諸事務について決定する権限、およびその種の事務について親の配慮を有する者を代理する権限を有する〔1 文〕。養育人は、子の労働収入を管理する権限、および扶養料、保険金、年金ならびにその他の社会的給付を子のために請求し、管理する権限を有する。第 1 6 2 9 条 1 項 4 文が準用される。</p> <p>(2) 養育人は、社会法典第 8 編第 3 4 条、第 3 5 条および第 3 5 条 a 第 1 項第 2 文第 3 号ならびに第 4 号による援助の範囲で子の教育と世話を引き受けた者と同格である。</p> <p>(3) 第 1 項および第 2 項は、親の配慮を有する者が別段の意思表示をしたときには適用されない。家庭裁判所は、子の福祉のために必要であるときには、第 1 項および第 2 項の権限を制限し、または排除することができる。</p> <p>(4) 第 1 6 3 2 条第 4 項または第 1 6 8 2 条による裁判所の裁判に基づいて子を手もとに置いている者に対しては、家庭裁判所のみが本条に掲げた諸権限を制限し、または排除することができるという条件付で、第 1 項および第 3 項が適用される。</p> <p>§ 1688</p> <p>(1) Lebt ein Kind für längere Zeit in Familienpflege, so ist die Pflegeperson berechtigt, in Angelegenheiten des täglichen Lebens zu entscheiden sowie den Inhaber der elterlichen Sorge in solchen Angelegenheiten zu vertreten. Sie ist befugt, den Arbeitsverdienst des Kindes zu verwalten sowie Unterhalts-, Versicherungs-, Versorgungs- und sonstige Sozialleistungen für das Kind geltend zu</p>
---	---

	<p>machen und zu verwalten. § 1629 Abs. 1 Satz 4 gilt entsprechend.</p> <p>(2) Der Pflegeperson steht eine Person gleich, die im Rahmen der Hilfe nach den § § 34, 35 und 35a Abs. 1 Satz 2 Nr. 3 und 4 des Achten Buches Sozialgesetzbuch die Erziehung und Betreuung eines Kindes übernommen hat.</p> <p>(3) Die Absätze 1 und 2 gelten nicht, wenn der Inhaber der elterlichen Sorge etwas anderes erklärt. Das Familiengericht kann die Befugnisse nach den Absätzen 1 und 2 einschränken oder ausschließen, wenn dies zum Wohl des Kindes erforderlich ist.</p> <p>(4) Für eine Person, bei der sich das Kind auf Grund einer gerichtlichen Entscheidung nach § 1632 Abs. 4 oder § 1682 aufhält, gelten die Absätze 1 und 3 mit der Maßgabe, dass die genannten Befugnisse nur das Familiengericht einschränken oder ausschließen kann.</p>
--	--